動物衛生研究所 プリオン病研究センター

プリオン病研究センターの役割

「動物衛生研究所 プリオン病研究センター」の役割について述べています。

1. プリオン病研究の推進
   ① プリオンタンパク質の性状と異常化機構の解明等の基礎研究
   ② 診断法の高度化、早期診断法の開発、不活化技術の開発等の応用・実用化研究
   ③ 内外機関との共同研究の推進

2. プリオン病に関する技術サービス
   ① サービスバランスへの協力
   ② 確定診断検査の実施
   ③ 技術普及、啓発活動の推進

3. 国際貢献
   ① 国際獣病事務局（OIE）のリファレンス・ラボラトリー
   ② 診断法の普及等の海外技術協力
プリオン病研究センターの
組織と業務

病原・感染研究チーム

① プリオンタンパク質の性状と異常化機構の解明
② 発病機序の解明と免疫学化学・病原学的診断法の高度化
③ 免疫学化学・病原学的確定診断の実施

病態解明研究チーム

① 病変分布、病変形成の病理形態学的研究
② 病理学的診断法の高度化
③ 病理組織学・免疫組織化学的確定診断の実施

リスク要因研究チーム

① 発病とリスク要因の解明
② 流行と伝播様式の解明、発生予測

安全性技術開発研究チーム

① 肉骨粉とプリオン検出法の高度化
② プリオンの不活化技術の開発
③ 肉骨粉の有効利用技術の開発

動物衛生高度研究施設、通称プリオン病研究センターの一般エリア
施設全体が金網で区画され、玄関は常時電気錠で施錠されている。

BSL2（Bio Security Level 2）実験室での実験
ガウン、手袋を着用し、クリーンベンチ内で異常プリオンタンパクを発現している細胞培養実験を行っている。
オープンラボ実験室内での実験
将来、オープンラボとなるスペースでブリオンの不活化技術の開発のための実験を行っている。

BSL3施設内実験室での実験
防護服、三重の手袋、マスク、帽子、眼鏡を着用し、安全キャビネット内で実験的BSE感染マウス材料の処理を行っている。

共焦点レーザー顕微鏡を用いた異常ブリオンタンパクの発現観察

牛へのBSE模擬剤の経口感染実験
BSL3管理区域内に数ある大動物室の一室で感染実験を行っている。

BSL3 管理区域内大動物で飼育されている豚肉から輸入された牛肉を経口的に与えられる豚を待っている。